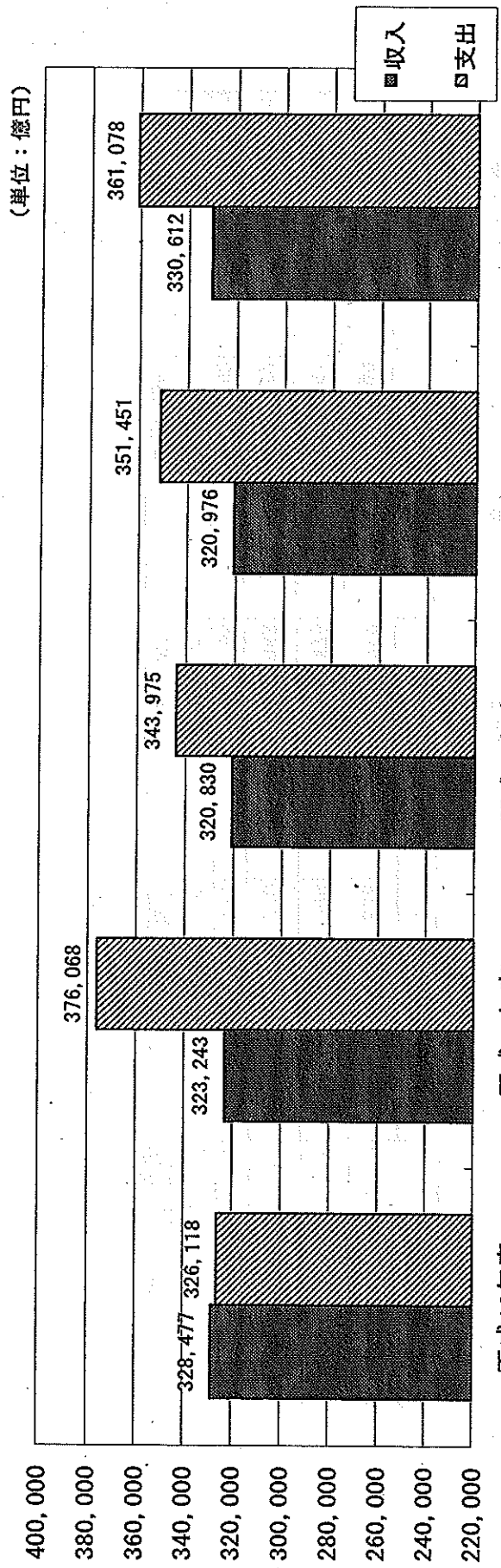


～ 厚生年金保険の収支決算(実質)の推移 ～



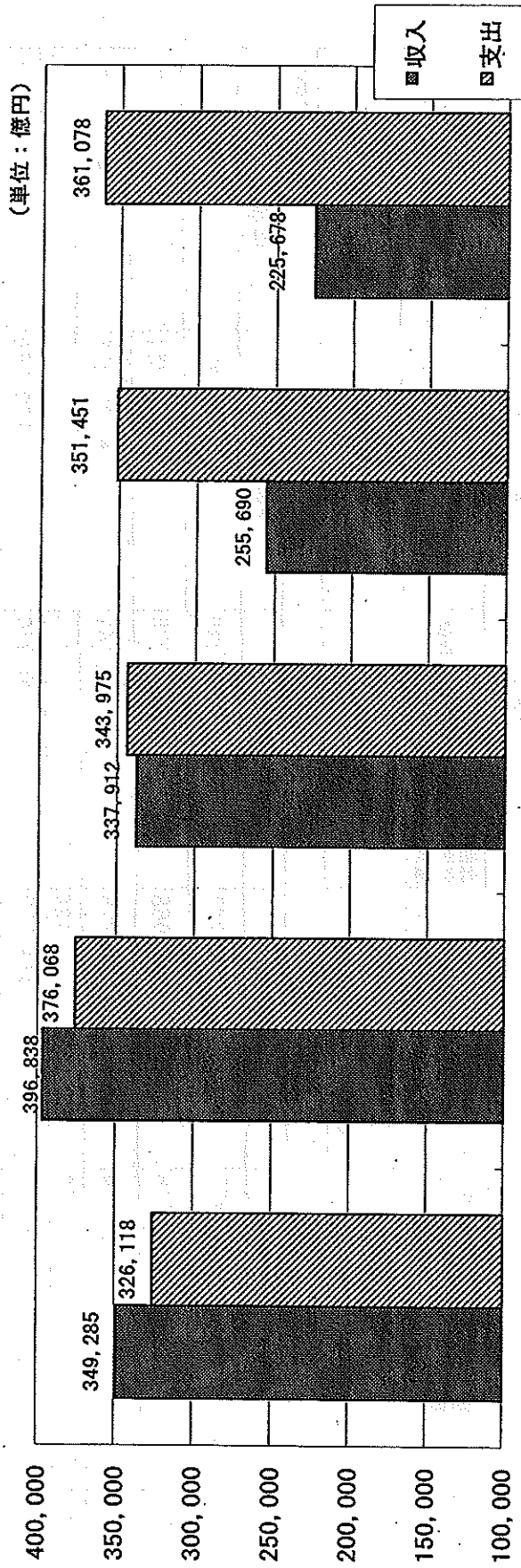
収入の主な増減要因	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	金額	増減	金額	増減	金額	増減	金額	増減	金額	増減
支出の主な増減要因										
厚生年金基金の代行返上による増等										
受給者数の増等										
受給者数の増、財政融資資金繰上償還等資金財源輸入の増										
保険料収入の増										
保険料収入の増										
受給者数の増等										
受給者数の増、年金積立金管理運用独立行政法人納付金の増										
受給者数の増等										
受給者数の増等										

(単位：億円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
収入	328,477	323,243	320,830	320,976	330,612
支出	326,118	376,068	343,975	351,451	361,078
収支差	2,359	▲ 52,825	▲ 23,145	▲ 30,475	▲ 30,465
業務勘定剰余金	150	226	105	63	85
積立金	1,376,619	1,324,020	1,300,980	1,270,568	1,240,188
(対前年増減額)		(+2,509)	(▲23,040)	(▲30,412)	(▲30,380)

※端数整理のため、合計が一部不一致である。
 ※収支決算(実質)は、収入から「積立金より受入」を除いたものである。

～ 厚生年金保険の収支決算(実質)の推移(時価ベース)～



(単位：億円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
収入	349,285	396,838	337,912	255,690	225,678
支出	326,118	376,068	343,975	351,451	361,078
収支差	23,167	20,770	▲ 6,063	▲ 95,762	▲ 135,399
業務勘定剰余金	150	226	105	63	85
積立金	1,382,468	1,403,465	1,397,509	1,301,810	1,166,496
(対前年増減額)	(+23,317)	(▲20,997)	(▲5,956)	(▲95,699)	(▲135,314)

※収支決算(実質)は、収入から「積立金より受入」を除いたものである。

平成16年財政再計算と収支決算との比較(厚生年金)

- 社会保障審議会年金数理部会において、財政再計算との実績との比較について審議されているところである。財政再計算と収支決算はベースが異なるため、財政再計算に合わせた収支決算の実績推計を作成し、比較が行われている。具体的には、厚生年金基金の代行分と厚生年金を一体として見直しを作成しているため、時価ベースの収支決算に基金の代行部分の保険料収入、給付費等を加え、基金の代行返上による納付金については控除している。また、基礎年金交付金については収入支出の両面から控除し、年度末積立金残高については、厚生年金基金の積立金及び国庫負担の繰延べ分を加えて推計を行っている。
- さらに、平成17年度においては、年金住宅融資事業等にかかる借入金の上償還に要する費用を支出から控除しており、平成18年度においては、年金資金運用基金の廃止に伴う資産の承継分等を控除している。
- 実績推計(収支決算)の下段には、時価ベースの収支決算(実質)を記載している。
- 平成20年度の実績推計については、現在取りまとめ中であるため、時価ベースの収支決算(実質)のみ記載している。

(単位:兆円)

年度	平成16年財政再計算				実績推計(収支決算)				財政再計算との差	
	収入	支出	収支差引残	積立金残高	収入	支出	収支差引残	積立金残高	収支差引残	積立金残高
16	27.3	31.1	△ 3.8	167.5	28.6 (34.9)	32.1 (32.6)	△ 3.5 (+ 2.3)	171.1 (138.2)	+ 0.3	+ 3.6
17	28.3	31.9	△ 3.6	163.9	36.0 (39.7)	32.5 (37.6)	+ 3.4 (+ 2.1)	174.2 (140.3)	+ 7.0	+ 10.3
18	29.8	32.9	△ 3.1	160.8	32.0 (33.8)	33.2 (34.4)	△ 1.2 (△ 0.6)	173.6 (139.8)	+ 1.9	+ 12.8
19	31.2	33.8	△ 2.5	158.3	24.7 (25.6)	34.2 (35.1)	△ 9.5 (△ 9.6)	164.4 (130.1)	△ 7.0	+ 6.1
20	33.0	34.9	△ 1.9	156.4	(22.6)	(36.1)	(△ 13.5)	(116.6)	-	-

(※) 端数整理のため、合計が一部不一致である。

(出典: 社会保障審議会年金数理部会提出資料)

平成16年財政再計算においては、毎年度積立金を一定程度取り崩して収支をまかなうという財政見通しとなっていたところであるが、20年度収支決算においては、積立金の運用収益の悪化の影響により大きなマイナスとなっている。なお、平成16年財政再計算においては見込んでいなかったが、平成21年財政検証においては、年金給付等の支出が保険料収入及び国庫負担を上回る基調であることや、平成20年12月末までの株価等の状況を織り込み財政検証を行っている。